

横查情報月報



2021
5051

2月
5日

横浜市衛生研究所

令和3年2月号 目次

【検査結果】

年末食品収去検査結果(令和2年度)	1
魚介類中のPCB検査結果(令和2年度)	3

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告(令和3年1月)	4
---------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報(令和3年1月)	8
-----------------------------	---

年末食品収去検査結果(令和2年度)

年末食品等一斉点検事業は厚生労働省大臣官房生活衛生・食品安全審議官から出された「令和2年度食品、添加物等の年末一斉取締りの実施について」の通知に基づき、食品流通量が増加する年末及び食中毒患者が多発する冬季における食中毒の防止を図るとともに、積極的に食品衛生の向上を図る見地から全国一斉に実施されるものです。

本市においては令和2年11月2日から12月28日までを年末取締り期間と定め、一斉点検を行いました。そのうち、健康福祉局食品専門監視班及び各区福祉保健センターによる収去で搬入された検体について、当所が行った食品添加物検査及び細菌検査の結果について報告します。

1 食品添加物検査

搬入された113検体(輸入品99検体、国産品14検体)の食品について、保存料、着色料、酸化防止剤など1,955項目の検査を実施しました(表1)。

その結果、酒精飲料1検体から表示にないソルビン酸(保存料)を検出し、食品表示法違反が疑われたため、製造所を所管する自治体が現在調査をしています。その他の検体はいずれも食品衛生法及び食品表示法に適合していました。

表1 食品添加物検査結果

令和2年11月～12月

食品区分	検体数	違反検体数	項目数	検査項目					
				保存料	着色料	甘味料	酸化防止剤	漂白剤	発色剤
魚介類加工品	2	0	44	6	34	-	4	-	-
肉卵類及びその加工品	2	0	25	3	17	-	3	-	2
穀類及びその加工品	5	0	79	12	51	6	9	1	-
野菜類・果物及びその加工品	13	0	170	34	102	14	17	3	-
菓子類	40	0	684	75	493	59	57	-	-
清涼飲料水	6	0	144	46	85	12	1	-	-
酒精飲料	12	※	228	36	170	11	11	-	-
かん詰・びん詰食品	16	0	253	45	170	17	19	1	1
その他の食品	17	0	328	58	221	30	19	-	-
合 計	113	※	1,955	315	1,343	149	140	5	3

- : 未実施

※: 1検体表示違反が疑われたため、所管自治体で調査中

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

2 細菌検査

細菌検査の内訳は、食肉製品・洋生菓子・そうざいなど56検体151項目でした(表1)。

検査の結果、規格基準^{*1}違反はありませんでした。また、衛生規範^{*2}不適もありませんでした。

*1 規格基準とは、食品及び添加物について食品衛生法第11条により基準、規格を定めたものことです。

*2 衛生規範とは、弁当、そうざい、漬物、洋生菓子及び生めん類について定められた衛生的な取り扱い等の指針のことです。

表2 細菌検査結果

令和2年11月～12月

食品区分	検査 検体数	検査 項目数	違反・不適 検体数
冷凍食品			
無加熱摂取冷凍食品	2	4	
凍結直前未加熱の加熱後摂取冷凍食品	3	6	
魚介類加工品			
ゆでがに	6	18	
肉卵類及びその加工品			
非加熱食肉製品(生ハム)	1	3	
包装後加熱食肉製品(ボロニアソーセージ等)	2	4	
加熱後包装食肉製品(ハム)	1	3	
菓子類			
洋生菓子	12	36	
清涼飲料水			
清涼飲料水	1	1	
その他の食品			
加熱そうざい	17	51	
非加熱そうざい	11	25	
合 計	56	151	0

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

魚介類中のPCB検査結果(令和2年度)

令和2年10月に中央卸売市場本場で収去した市内に流通する魚介類5種5検体について、PCBの検査を行いました。その結果、表に示すとおり全ての検体で不検出でした。

表 PCBの検査結果

食品の種類	検体数	検出件数	結果	暫定的規制値
遠洋沖合魚介類	マイワシ	1	0	0.5ppm
	マサバ	1	0	
内海内湾魚介類	イサキ	1	0	3ppm
	ブリ	1	0	
	マアジ	1	0	
計	5	0		

(検出限界:0.01ppm)

《PCBについて》

PCBとは、ポリ塩化ビフェニル(Poly Chlorinated Biphenyl)の略称で、ポリ塩化ビフェニル化合物の総称です。理論的には209種類の異性体があり、ダイオキシン類に分類される異性体も含まれています。

PCBは化学的に安定で、不燃性、高絶縁性などの特徴を持つため、トランス(変圧器)、コンデンサー(蓄電器)などの様々な用途に使用されてきました。現在は新たな製造が禁止されています。PCB使用製品及びPCB廃棄物は定められた期限までに処分する必要があります。

PCBは分解されにくく、脂肪に溶けやすい性質があるため、環境中に放出されたものは食物連鎖の上位に位置する生物に蓄積され、魚介類、肉類、乳製品などに汚染が広がりました。また、大気や海洋などの循環により拡散し、北極圏などPCBを使用していない地域のアザラシやクジラなどの生物にも高濃度に蓄積されていることがあり、地球規模での汚染が問題となっています。

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告(令和3年1月)

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告が高い値が続いています。
- インフルエンザは例年より報告数が少ないです。

◇ 全数把握の対象

〈1月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	5件
E型肝炎	4件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
アメーバ赤痢	4件	侵襲性肺炎球菌感染症	3件
ウイルス性肝炎	1件	水痘(入院例に限る)	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	梅毒	5件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6件	-	-

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O91が1件、O血清群不明が1件(ともに無症状病原体保有者)の報告がありました。感染経路等不明です。
- 2 E型肝炎: 4件(うち無症状病原体保有者1件)の報告がありました。感染経路等不明です。
- 3 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が4件あり、うち2件が性的接触による感染が推定されています。
- 4 ウイルス性肝炎: B型の報告が1件ありました。性的接触による感染が推定されています。
- 5 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 3件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 6 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群2件、B群3件、G群1件の報告がありました。
- 7 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者が2件、AIDSが3件の報告がありました。いずれも男性で、性的接触(同性間4件、性別不詳1件)による感染が推定されています。
- 8 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 40代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 9 侵襲性肺炎球菌感染症: 10歳未満の報告が2件(ワクチン接種歴4回あり)、80歳代の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。いずれも感染経路等不明です。
- 10 水痘(入院例に限る): 30歳代の検査診断例の報告が1件ありました。
- 11 梅毒: 無症状病原体保有者2件、早期顕症梅毒 I 期3件の報告がありました。いずれも男性で、うち4件が異性間性的接触による感染が推定されています。

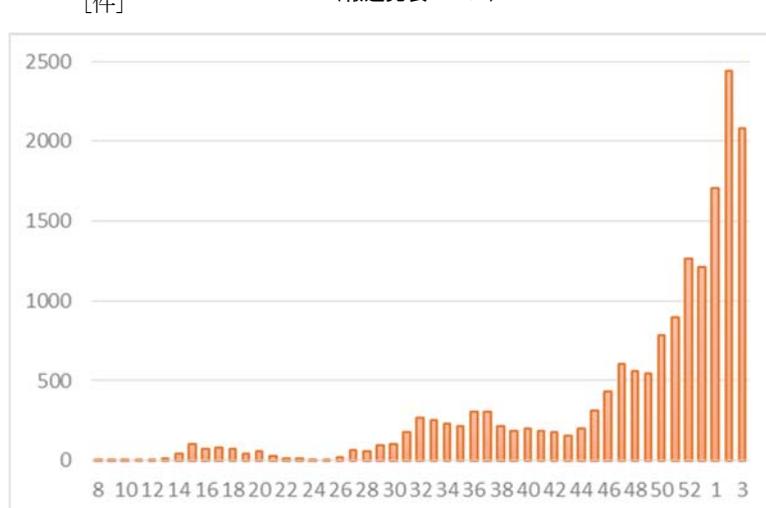
◇ 指定感染症(新型コロナウイルス感染症)

第52週～第3週に横浜市から報道発表のありました症例は8704件でした。

横浜市内の新型コロナウイルスに感染した患者の発生状況

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/yobosesshu/kansensho/coronavirus/kanja.html>

新型コロナウイルス感染症報告数
(報道発表ベース)

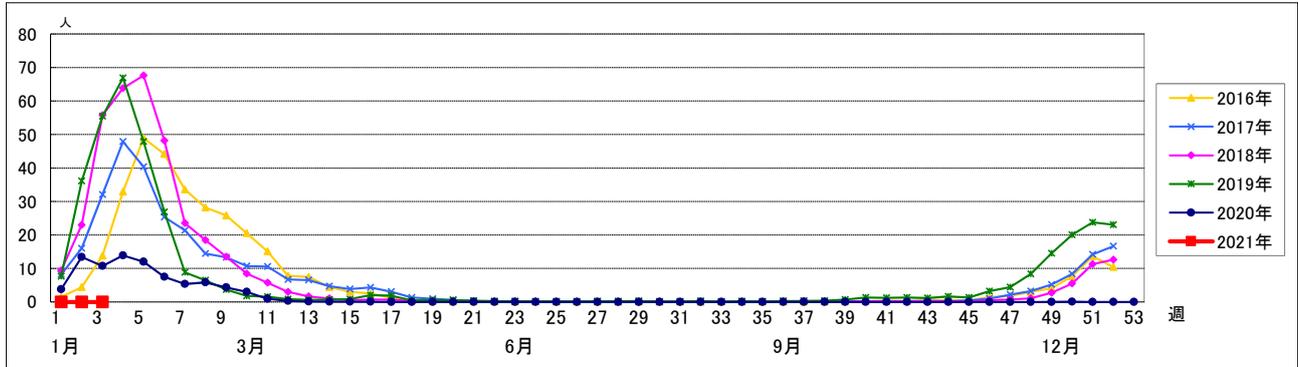


[週]

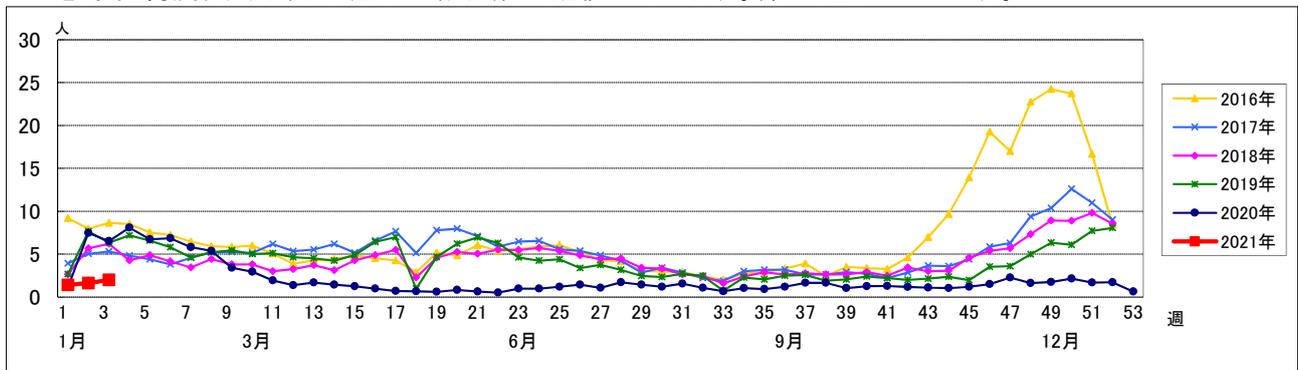
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第52週	12月21日～12月27日
第53週	12月28日～1月3日
第1週	1月4日～1月10日
第2週	1月11日～1月17日
第3週	1月18日～1月24日

1 インフルエンザ: 昨シーズンは2019年第40週で流行開始の目安(1.00)を上回り、第49週には流行注意報発令されましたが、今シーズンは例年より低めの報告数で推移しており、第3週は0.00です。



2 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第3週は1.99です。



3 性感染症(12月)

性器クラミジア感染症	男性:24件	女性:35件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:7件	女性:11件
尖圭コンジローマ	男性:5件	女性:9件	淋菌感染症	男性:16件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第52週	第53週	第1週	第2週	第3週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(12月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	6件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

12月21日から1月24日に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点23件、内科定点2件、基幹定点5件、定点外医療機関からは2件でした。

2月5日現在、表に示したウイルス分離1株と遺伝子5件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果1月期(2020年第52週～2021年第3週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	そ の 他
	アデノ 1 型	1 -	
ヘルペス 1 型			- 1
ライノ	- 3	- 1	
合計	1 3	- 1	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

1月期(2020年第52週～2021年第3週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件、劇症型溶血性レンサ球菌1件、ブドウ球菌1件、サルモネラ属菌1件、非定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌3件、劇症型溶血性レンサ球菌2件、侵襲性肺炎球菌2件、侵襲性インフルエンザ菌1件の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌1件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、基幹定点からブロードレンジPCR(細菌に共通な16SリボソームRNA(16S rRNA)遺伝子の増幅を試み、増幅が見られた場合は、その遺伝子配列を解析することで菌種を同定する方法)2件の検査依頼がありました。小児科定点からは検査依頼はありませんでした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2020年第52週～2021年第3週)

菌株同定		項目	検体数	血清型等	
基幹定点		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)、 <i>Serratia marcescens</i> (1)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)	
		劇症型溶血性レンサ球菌	1	A群溶血性レンサ球菌 T4型 (1)	
		ブドウ球菌	1	<i>Staphylococcus aureus</i> (1)	
		サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Saintpaul (1)	
医療機関		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	3	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)、 <i>Escherichia coli</i> (1)	
	非定点	劇症型溶血性レンサ球菌	2	B群溶血性レンサ球菌 III型 (1)、 B群溶血性レンサ球菌 II型 (1)	
		侵襲性肺炎球菌	2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 15型 (1)、 <i>Streptococcus pneumoniae</i> UT (1)	
		侵襲性インフルエンザ菌	1	<i>Haemophilus influenzae</i> UT (1)	
保健所		腸管出血性大腸菌	1	O91 : H- VT1 VT2 (1)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等	
医療機関	基幹定点	血液	ブロードレンジPCR(16S rRNA)	2	陰性 (2)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。

今回は、当WEBページにおける令和3年1月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数は市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。また、令和2年2月の集計より、新Webアクセス解析システム「Matomo」による集計となります。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和3年1月の総アクセス数は、442,463件でした。前月に比べ8.5%増加しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター*84.6%、保健情報6.2%、検査情報月報3.5%、食品衛生1.4%、薬事0.9%、生活環境衛生0.8%でした。

* 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

1月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「横浜市感染症情報センタートップページ」、2位は、「ぎょう虫(蟯虫)症について」、3位は、「死亡率・致死率(致命率)・死亡割合について」でした。

9位には、「ペストについて」が入っています。新型コロナウイルス感染症の拡大とともに、1947年に出版されたフランスの小説『ペスト』が注目を集めたことが影響しているようです。

表1 令和3年1月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	横浜市感染症情報センタートップページ	233,282
2	ぎょう虫(蟯虫)症について	7,211
3	死亡率・致死率(致命率)・死亡割合について	6,413
4	大麻(マリファナ)について	5,511
5	衛生研究所トップページ	4,905
6	トキソプラズマ症について	4,204
7	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	4,065
8	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,842
9	ペストについて	3,416
10	EBウイルスと伝染性単核症について	2,961

データ提供:市民局広報課

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/idsc.html>

「ぎょう虫(蟯虫)症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ka/gyou1.html>

「死亡率・致死率(致命率)・死亡割合について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/hokenjoho/wadai/deathrate.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

令和3年1月の問い合わせは、2件でした(表2)。

表2 令和3年1月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数
クリプトコッカス症について	1
水痘(水疱瘡)・帯状疱疹(予防接種)について	1

2 追加・更新記事

令和3年1月に追加・更新した主な記事は、1件でした(表3)。

表3 令和3年1月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
1月25日	感染症に気をつけよう(1月号)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】